

中部圏長期ビジョン ～ 地域づくりのあり方や将来像 ～

今津 崇¹ 鬼頭 由夏¹

¹企画部広域計画課（〒460-8504 名古屋市中区三の丸 2-5-1）

激変する社会経済情勢に対応し、人（QOL）を重視し、新たな産業や成長につながる中部圏の目指すべき将来像等を「中部圏長期ビジョン」としてとりまとめ、提言・公表しました。

中部圏長期ビジョンでは、組織や分野の垣根を越えた強固な連携による相乗効果の発揮、取り組みの加速等、将来像の実現に向けた考え方も取りまとめています。

中部圏長期ビジョンの意義、提言プロセス、今後の展望等について考察します。

キーワード：コトづくり、将来像，QOL，広域連携

1. はじめに

激変する社会経済情勢に対応し、人（QOL）を重視し、新たな産業や成長につながる2050年を見据えた中部圏の目指すべき将来像を「中部圏長期ビジョン」としてとりまとめ、公表しました。

着実に推進されてきたインフラ機能向上を重視した「モノづくり」に加え、地域と生活の満足度につながる「コトづくり」も重視する必要があります。今回公表した中部圏長期ビジョンでは、「モノ」を重視するのみでなく、「人」クオリティー・オブ・ライフ（QOL）向上を重視した魅力ある地域づくりを産学官が連携して目指すこととしました。

※QOL：地域と生活に対する個人の満足度

本稿は、中部圏長期ビジョン提言・公表の意義・プロセスや今後の展望等について考察するものです。本稿により、中部圏長期ビジョンを知って頂き、長期ビジョンの目指す将来像への新たな気づきや、新たな取り組みが生まれるきっかけになればと考えます。

中部圏もこれらの情勢を踏まえ、持続可能で成長する社会を創るために、中部の2050年に向けた長期展望として、地域づくりのあり方・方向性・将来像について取りまとめた「中部圏長期ビジョン」を2022年2月に策定いたしました。（図-1）

現行の法定計画としては2016年3月の中部圏広域地方計画があります。本計画においても本年度より検討を進めており、「中部圏長期ビジョン」を反映していく予定です。



図-1 中部圏中長期計画の策定状況

2. 中長期計画の策定状況

激変する社会経済情勢の変化を踏まえ、2021年度に国土審議会計画推進部会で、2050年を見据えた「国土の長期展望」が示されました。

3. 社会経済情勢・中部の特徴（強み・課題）

策定にあたっては、社会経済情勢・中部の特徴（強み・課題）が何であるかから考える事にしました。

(1) 社会経済情勢

少子高齢化、人口減少、在留外国人の増加、デジタル化の立ち後れ、カーボンニュートラルへの対応、東京一極集中などの社会全般の変化や、With コロナ時代への生活変化、度重なる災害、新興国の成長による国際競争の激化、労働や産業の質の変化など、社会情勢は変化しています。

以前からの課題に加え、特にこの二、三年間我が国は、新しい課題（コロナ禍に起因する国際的な競争となりつつある経済回復、SDGs、脱炭素社会、技術革新等が急速に激化するデジタル化への適応）への対応が急務となっています。

(2) 中部の強み・課題

中部圏は日本のまんなかに位置し、充実した交通インフラ・ネットワークがあります。さらに、リニア開通に向けて、スーパーメガリージョンの形成が期待されています。その他、豊かな自然環境、固有の歴史・文化、経済と食を支える基盤産業など多くの強みがあります。

一方、南海トラフ地震の発生が懸念されるなど災害のリスクや若者・女性への訴求力への課題もあります。

これらの諸情勢・中部の強み・課題をしっかりと受け止め、産・学・官が垣根を越えて連携し、横串発想による相乗効果を発現させ、これらの課題の解決に向けて取り組んでいくことが必要となっています。

4. 中部圏長期ビジョン提言のプロセス

私たちは、根本的に重要であることは何かを有識者に問いかけ、今後の中部圏の地域づくりのあり方について検討を始めました。

社会経済情勢、社会的ニーズや課題の多様化、変化スピードが加速する中、もはや民間・公共といった単純な括りでは対応が困難なテーマも多くあります。それらを踏まえ、検討会には若手やベンチャー企業者も委員として参加して頂き、中部圏の地域づくりのあり方や将来像の提言を頂く「中部圏長期ビジョン検討会」を2021年6月に設置し、以降6回にわたって、議論を深めました。（図-2）

また、実効性を確保するため、検討段階から地域づくりの担い手である中部地方整備局管内のすべての県・市町村の首長等とビジョンの実現に向けて意見交換を行い、各地域で実施している優良事例を共有するとともに新たな連携プロジェクトへの構築等にも寄与しました。



図-2 中部圏長期ビジョン検討会

5. 中部圏の目指すべき将来像

(1) 目指すべき将来像の基本的な考え方

目指すべき将来像の基本的な考え方は次の通りです。

◇豊かな自然、固有の歴史・文化、ものづくりをはじめとした多様な産業を有する中部圏の各地域が個性を磨き、世界から人材が集まり、すべての人が活躍できるQOLの高い魅力的な地域をつくる。

◇美しい自然を維持しながら、産学官の連携のもと、我が国の社会・経済を支えてきた中部圏の特性を活かし、世界的課題に挑み、新たな産業を育み、持続的に成長する地域をつくる。

◇交通・情報通信ネットワークを拡充し、中部圏内の多様な地域が補完・連携して中部圏が一体となって成長し、首都圏・近畿圏とともに我が国の社会・経済をけん引し、世界の拠点としての機能を果たす。

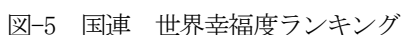
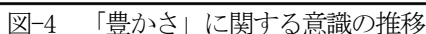
(2) 目指すべき将来像

中部圏長期ビジョンのとりまとめに当たっては、上記の基本的な考え方のもと、人という視点で、「QOLを高める」、産業という視点で「世界的課題にチャレンジし、成長する」、地域という視点で「個性を磨き助け合う」の三つを柱（図-3）として、2050年に向けた中部圏の目指すべき将来像を整理しました。



図-3 中部圏の目指すべき将来像(イメージ図)

人が幸せに生きる事が出来る社会を構築し、中部圏の各地域が個性を磨き、世界から人材が集まり、すべての人が活躍できるＱＯＬの高い魅力的な地域をめざします。その為には、インフラ整備のような「モノづくり」に加え、社会全体の付加価値を高め地域と生活の満足度につながる「コトづくり」を重視する必要があります。今後は「モノづくりを通じたコトづくり」によって、個々の地域のポテンシャルを活かしつつ、「つなぐ（ネットワーク）」の視点を持ち、広域連携により相乗効果を生み出していくことが重要であると改めて認識したところです。



(1) 重点連携プロジェクト

また、重点連携プロジェクトは、長期ビジョンの策定後も適時追加していくこととしています。

